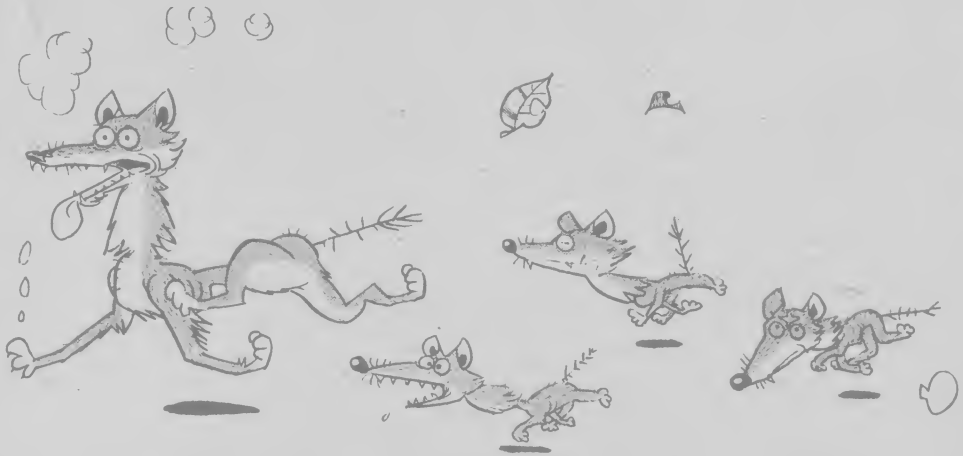
カア
カァ
カァ!!

その年――。

その地方を、とつぜんおそった秋は、
あらい風をともなって、原生林を泣かせると、
そのまま雪を呼んだ。

わたり鳥の大群は、あたふたと、
山の屋根をこえていき、
長い、長い、冬のおとずれを、告げて去った……。

ここに、山野は一夜にして、まっ白な
野獣と化し、
あらゆる生命にせまった!!

④

シリーズ黄色い涙●

SHINJI. GEKIGA. COLLECTION—NO. I

生命

（いのち）

作.構成・永島慎二

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

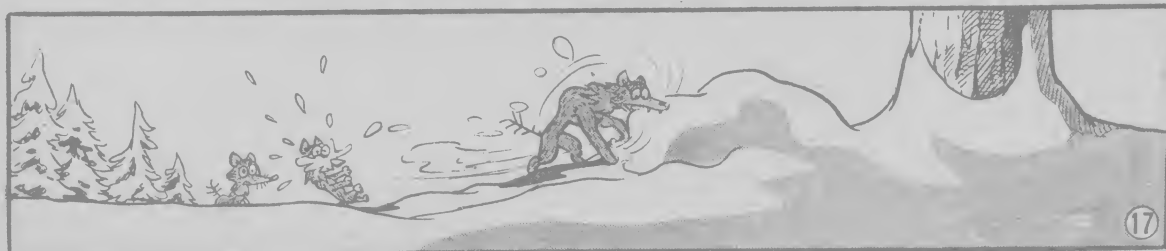
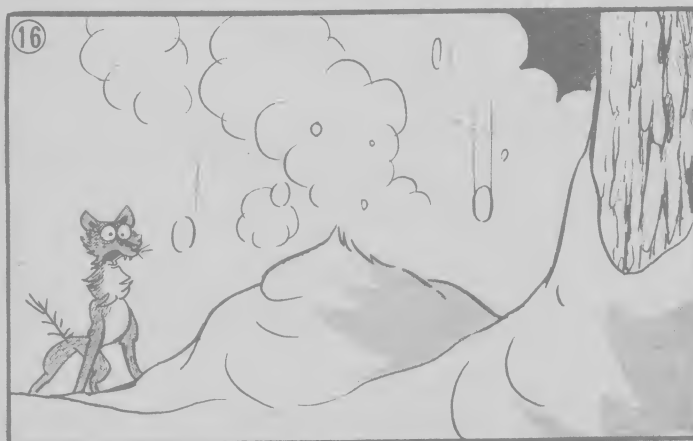
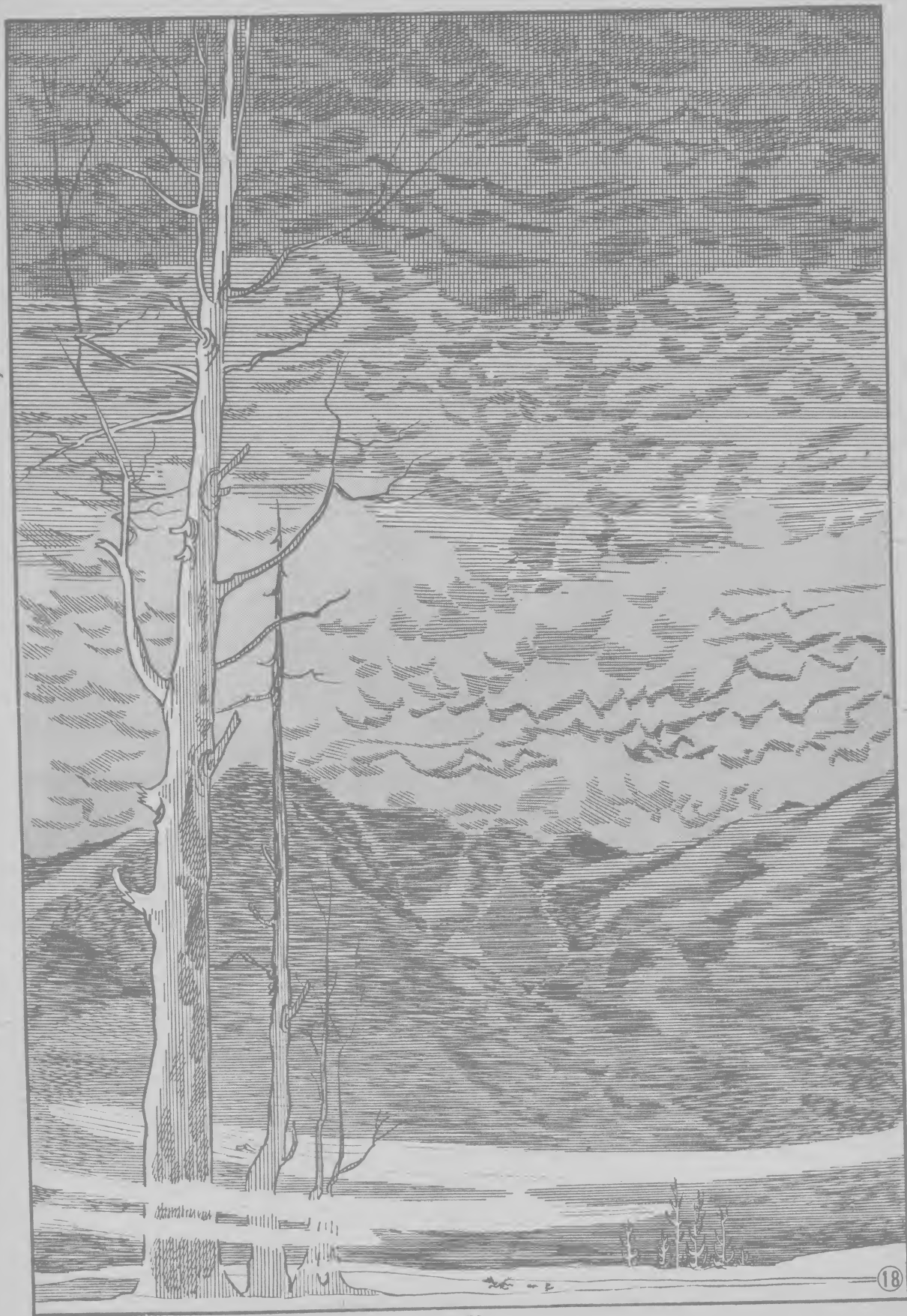
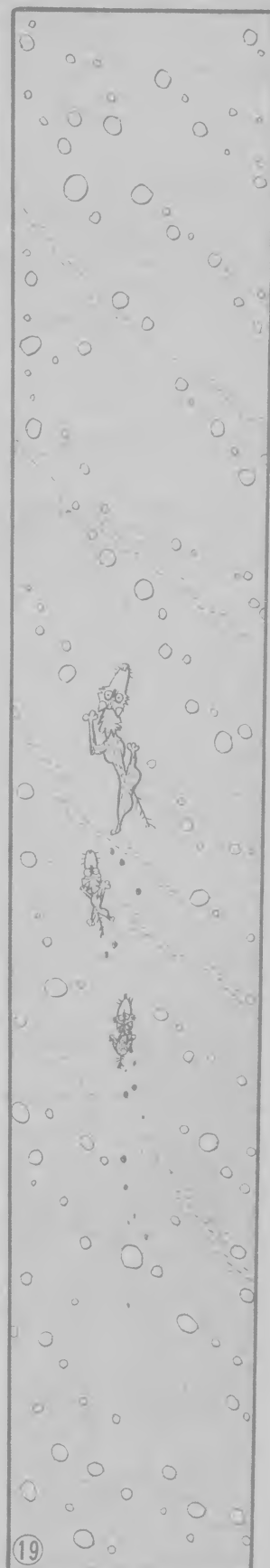
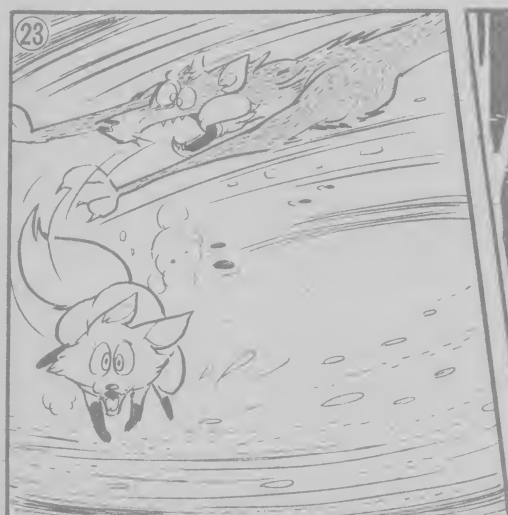
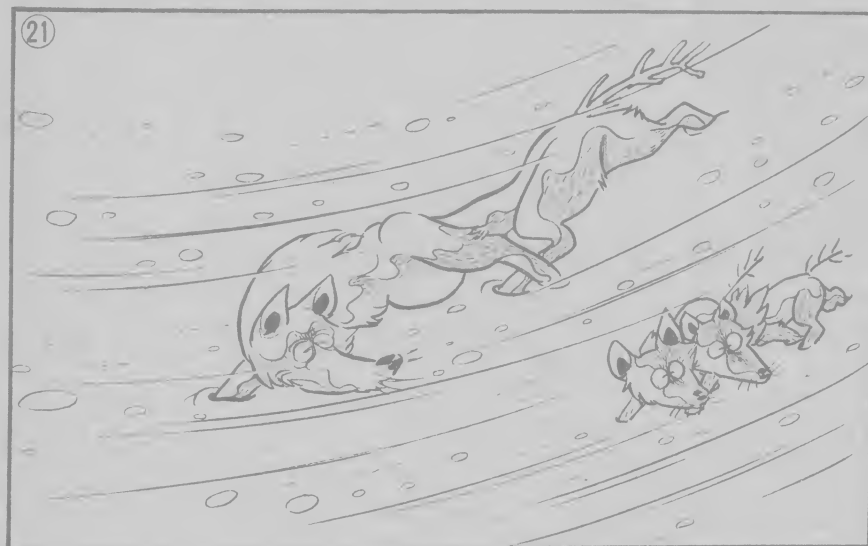
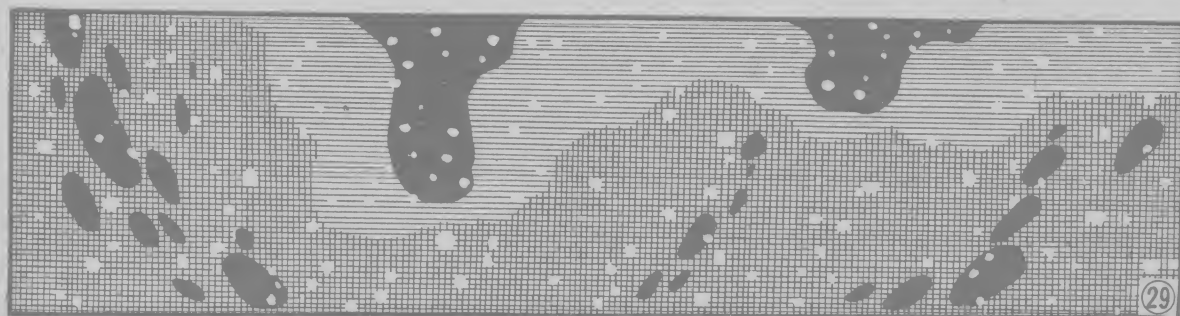
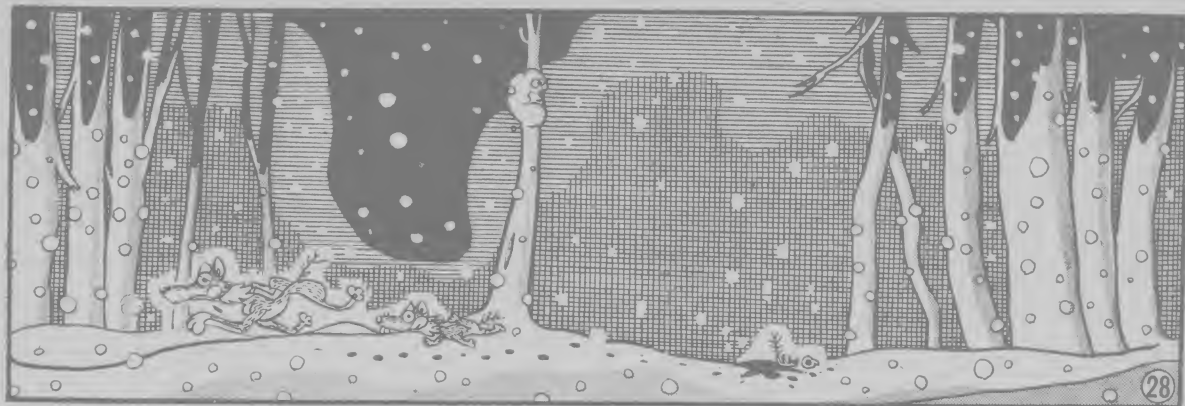
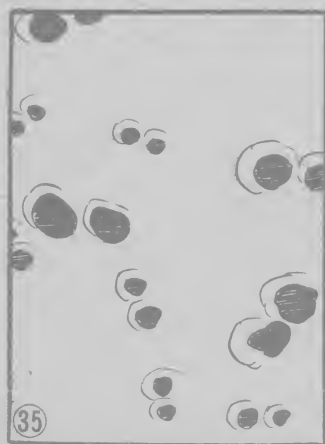
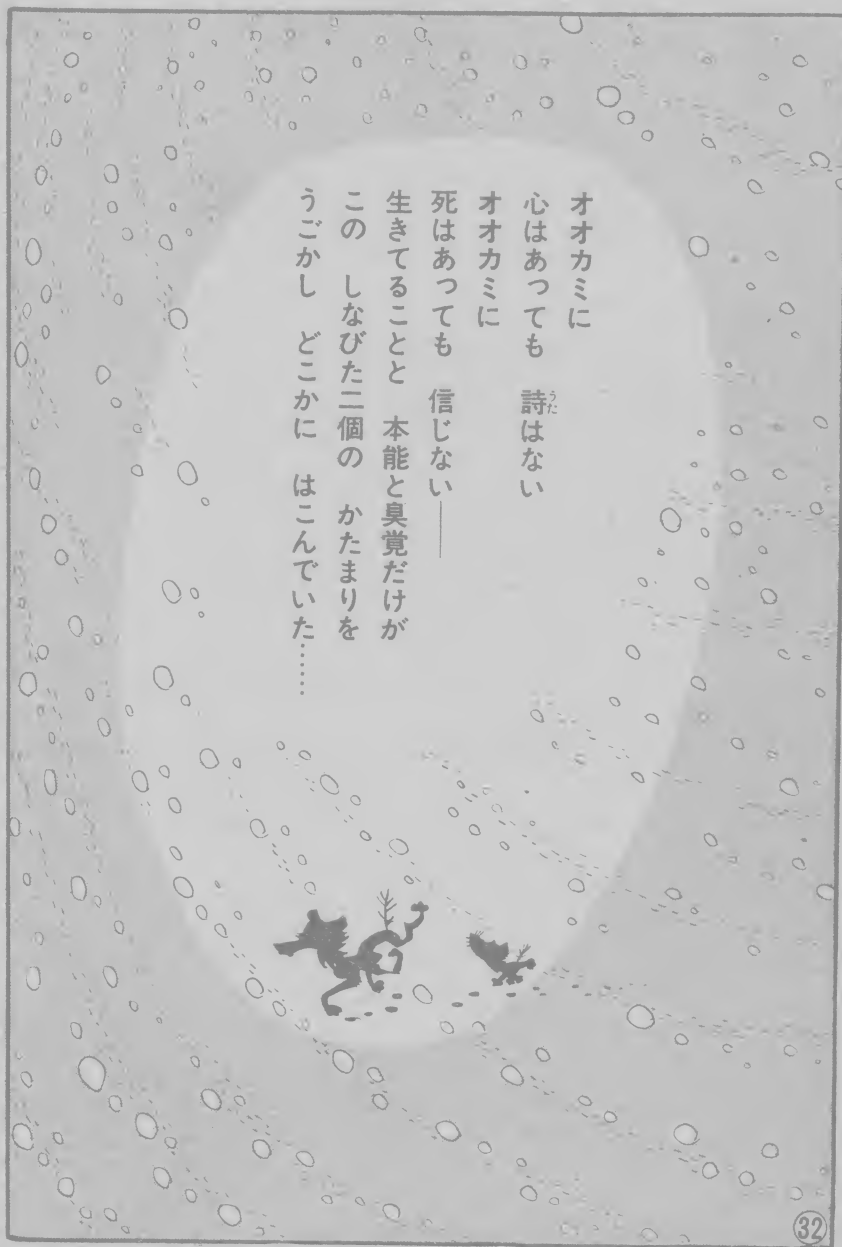
ドドッ!
キャー!

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒
ヒク!
㉓

極度の空腹は胃が口からとび出すほどのショックとなって二匹目の生命をうばった
オオカミの悲しみは食欲とはまったく別の次元で深まった――

オオカミに
心はあっても　詩はない
オオカミに
死はあっても　信じない——
生きてることと　本能と臭覚だけが
この　しなびた二個の　かたまりを
うごかし　どこかに　はこんでいた……

38

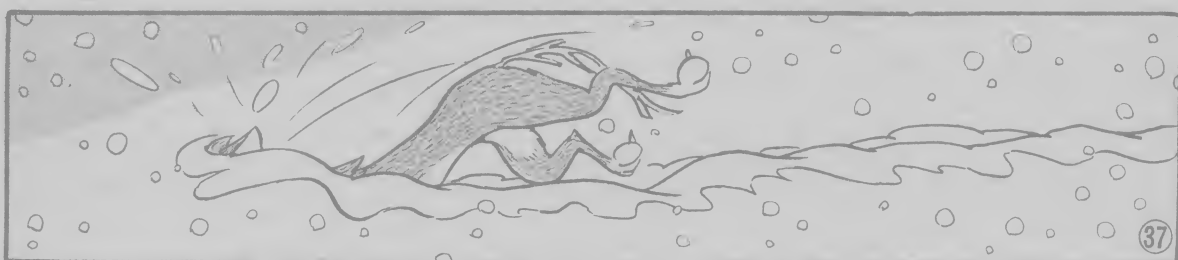
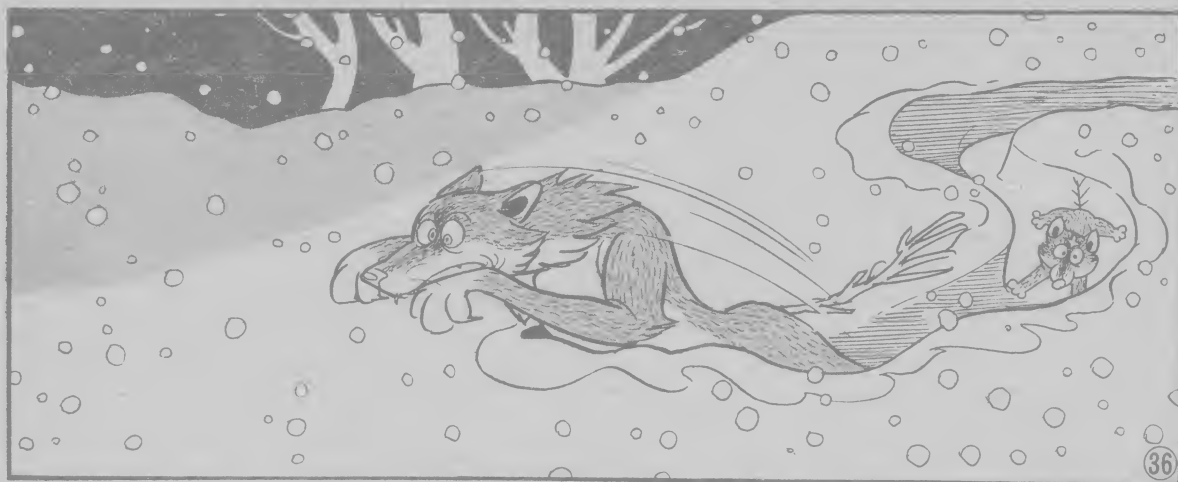
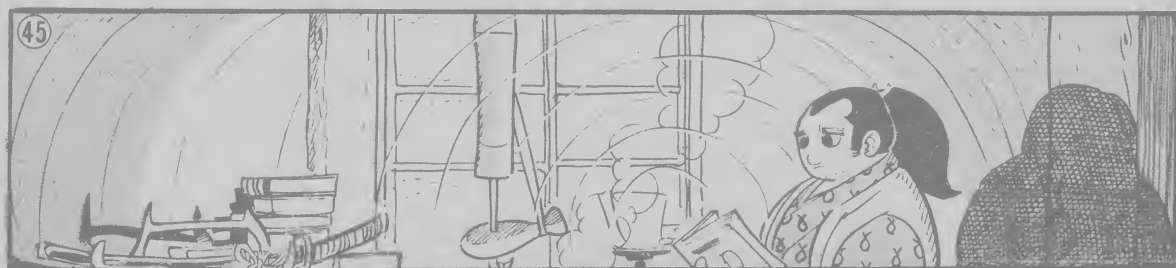
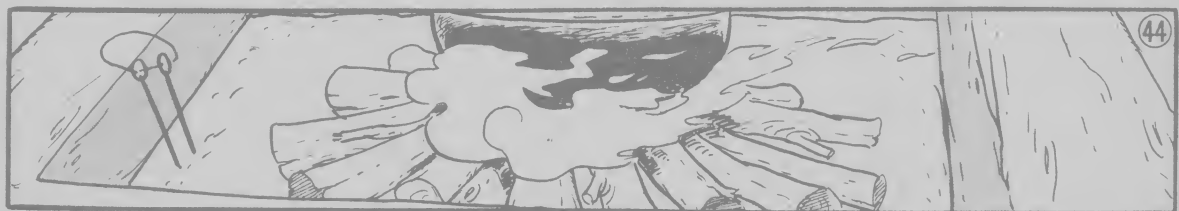
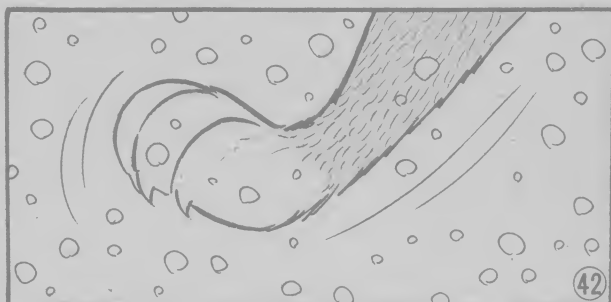
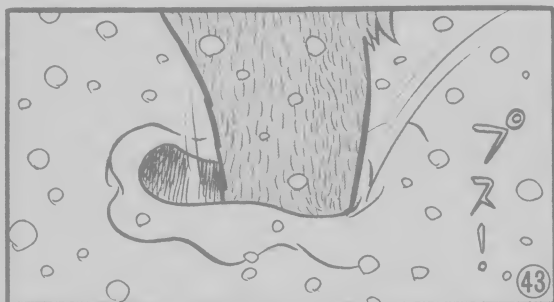
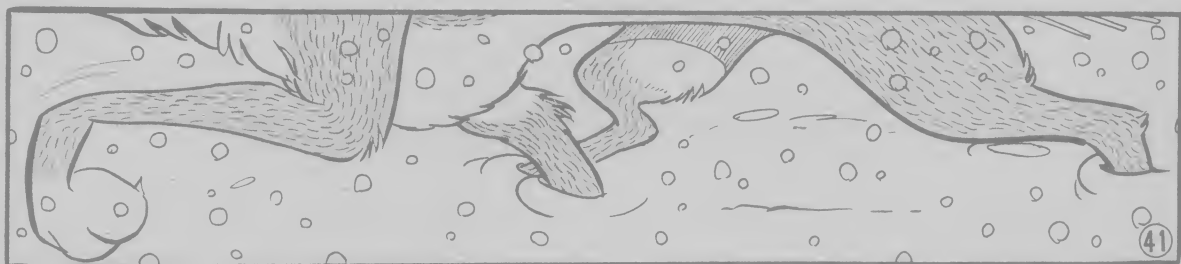
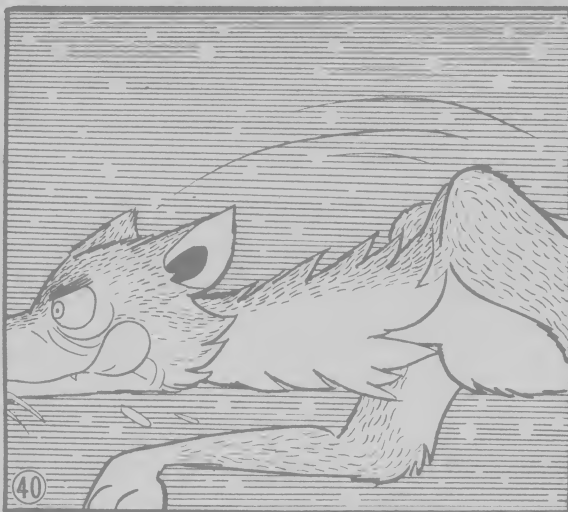
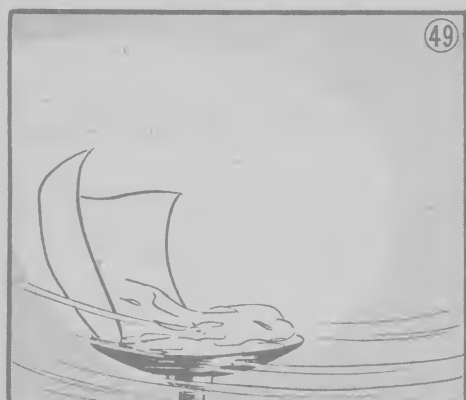
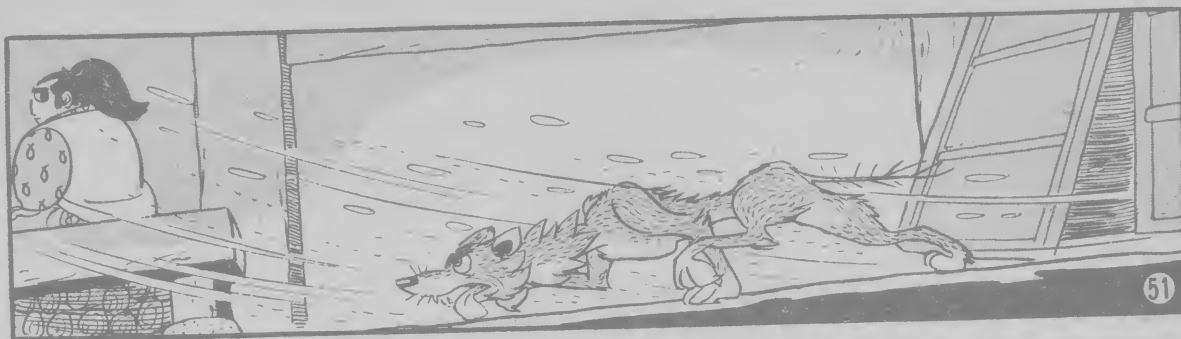
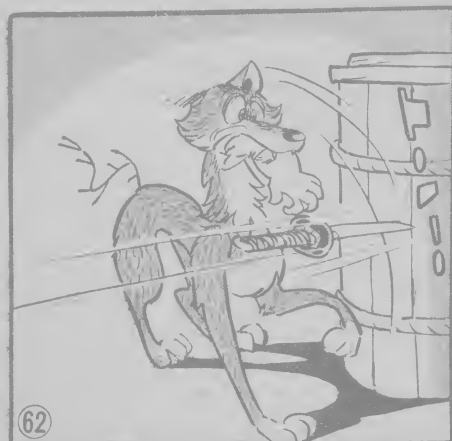
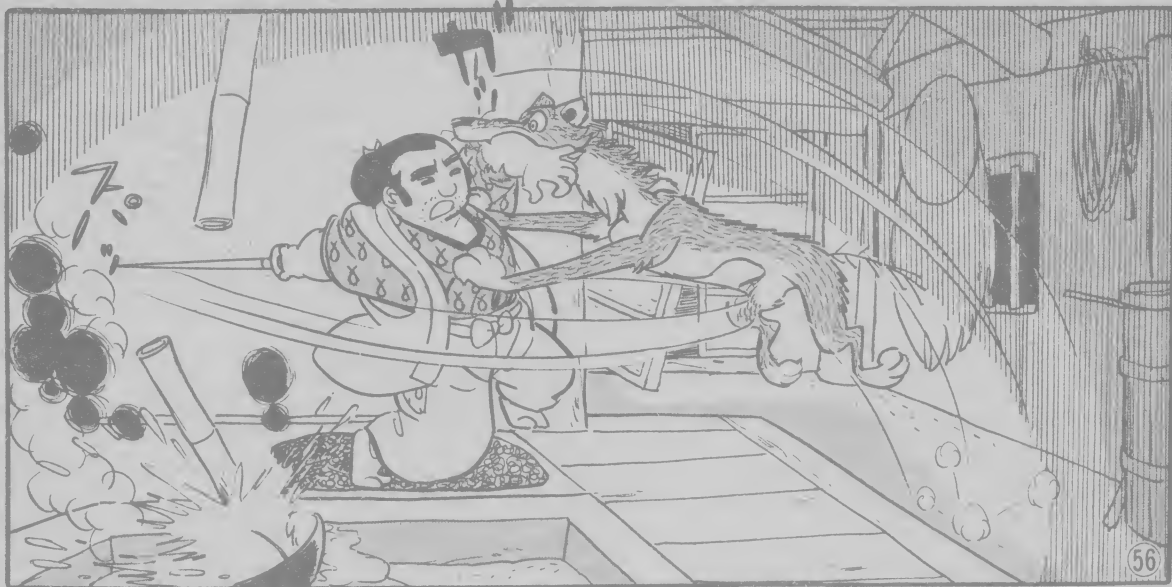
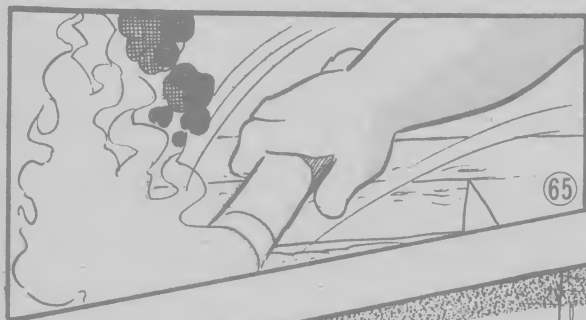
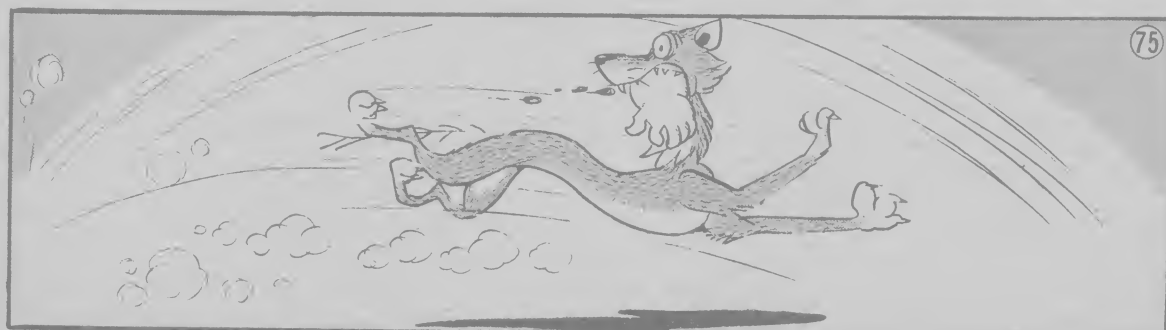
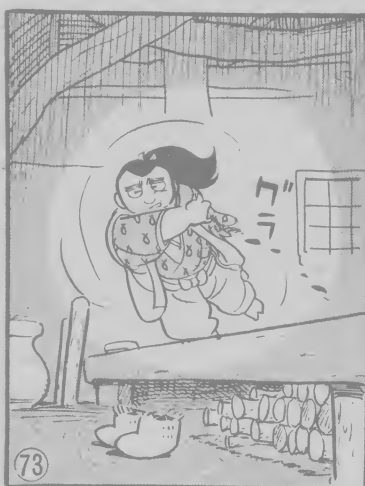
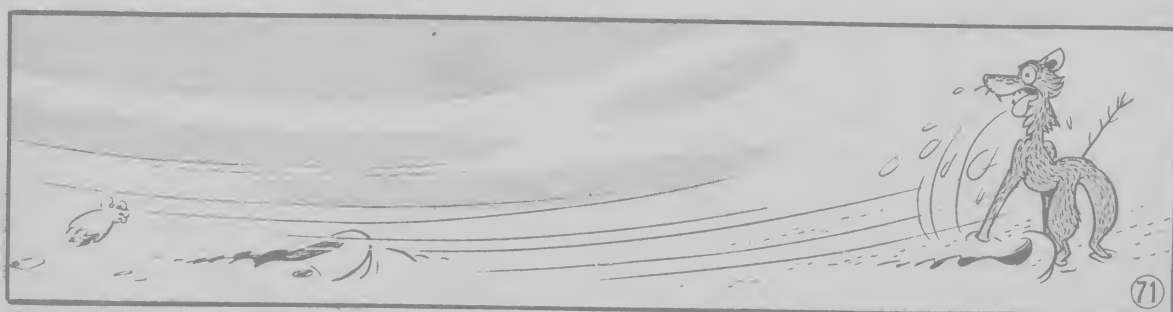
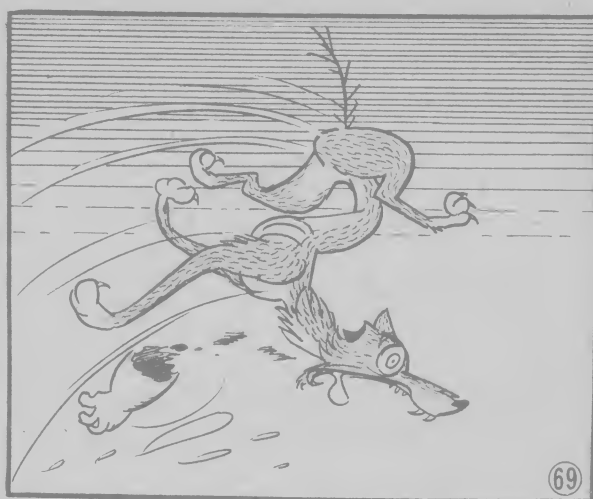
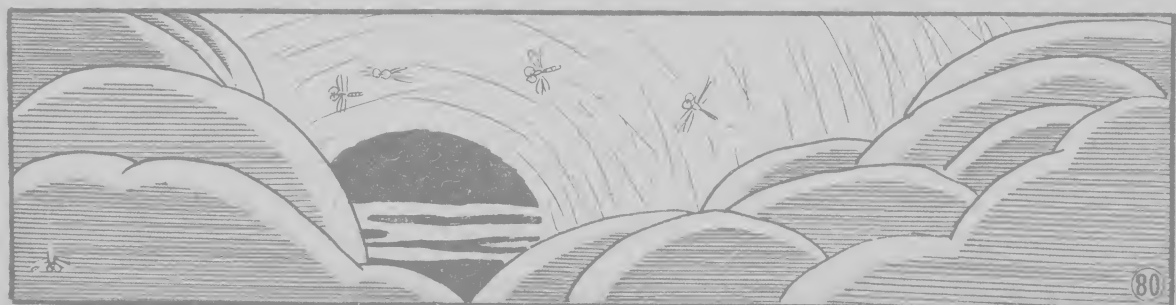
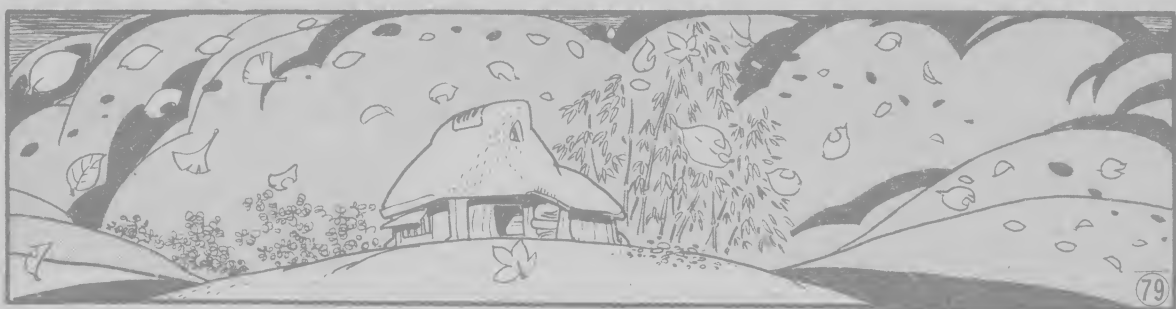
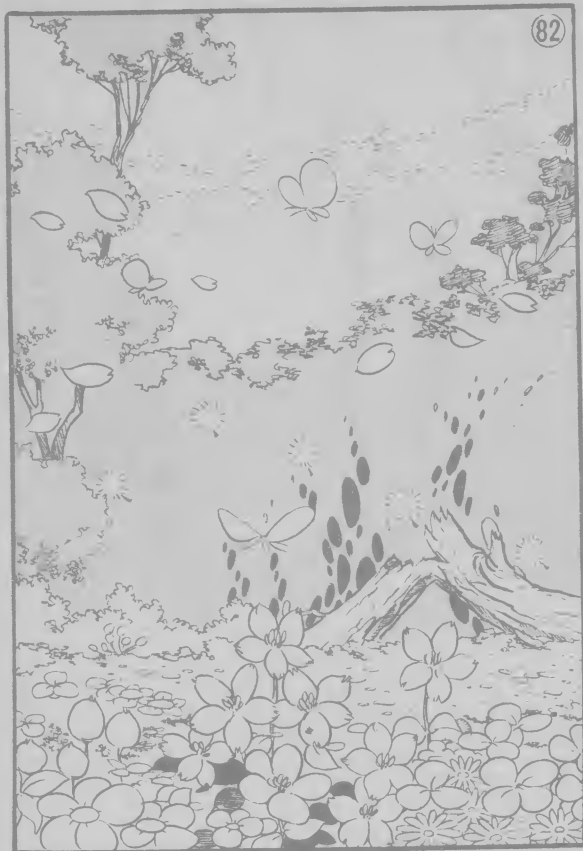
プスー！

ビョオオオ…
ビュルゥ…

ヴウウウ

グラ

76
77
78
79
80

81
82
83
84

こうして
歳月は流れて――
10年……いや
15年ぐらいで
あろうか――

あの時、――
母親オオカミの
もちかえった
人間の片腕ひとつで
最後の子オオカミは
その命の火を
なんとか
もやしつづけた
のである。

今、ここで、我々は
あの時の子オオカミが
たくましく成長し
一群のオオカミを
ひきつれるボス
としての彼に
再会する。

89
90
91
92
93
94

100

101

102

103

104
105
107

ガウウウー
ギャッ

ウォオオォォ

115

116

117

118

119

128

129

130

131

132

133
スパッ

134

135

136

137
ウウ…
ヒョオ…

138
139
140
141
142

143

144

ギャオーーン
145

146

パチ
パチ
パチ

パチパチ

じつに長いあいだ
わしは
おまえと
戦うために
だけ……
生きつづけてきた……!!!

ヒュウ……

ウウウウ……

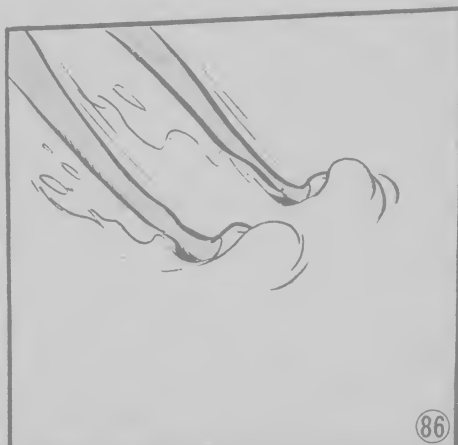
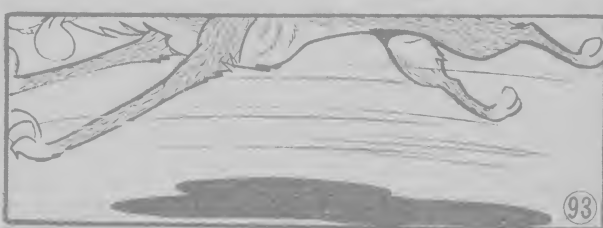
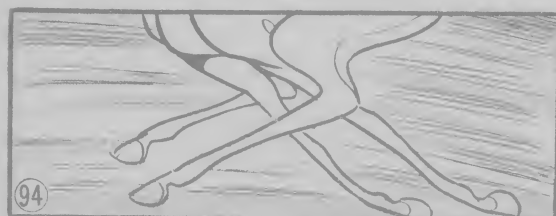
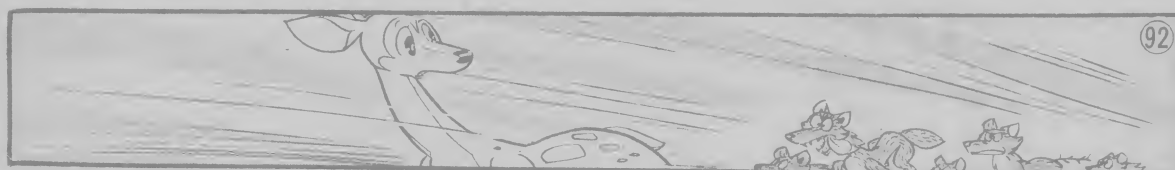
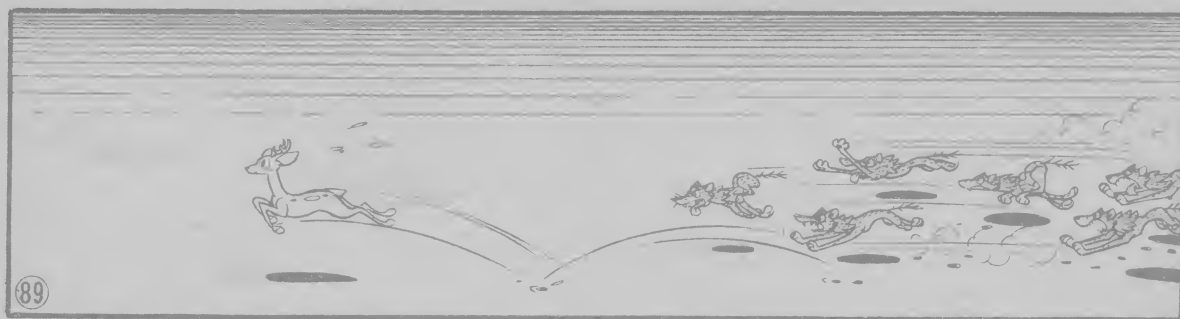
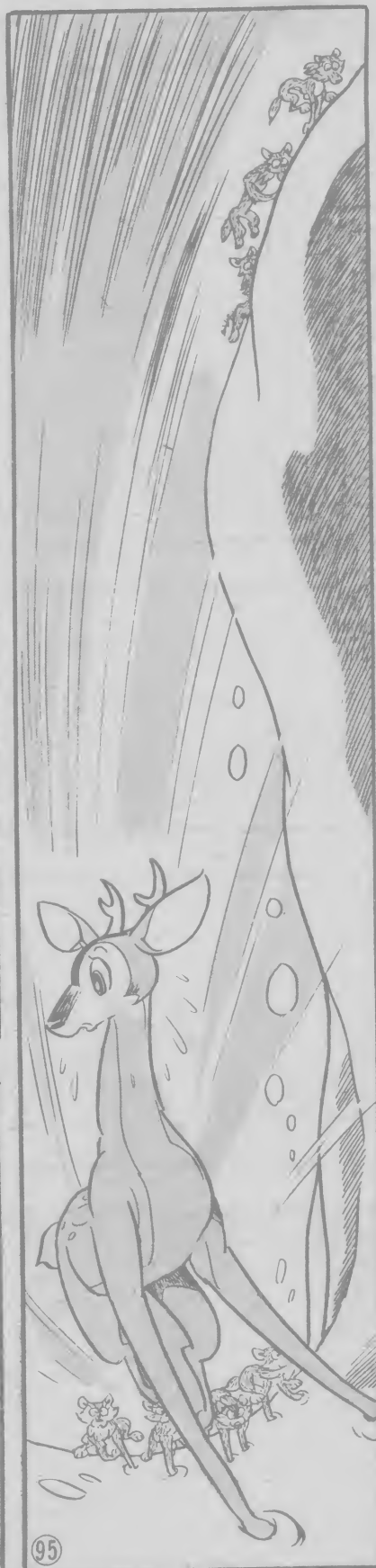
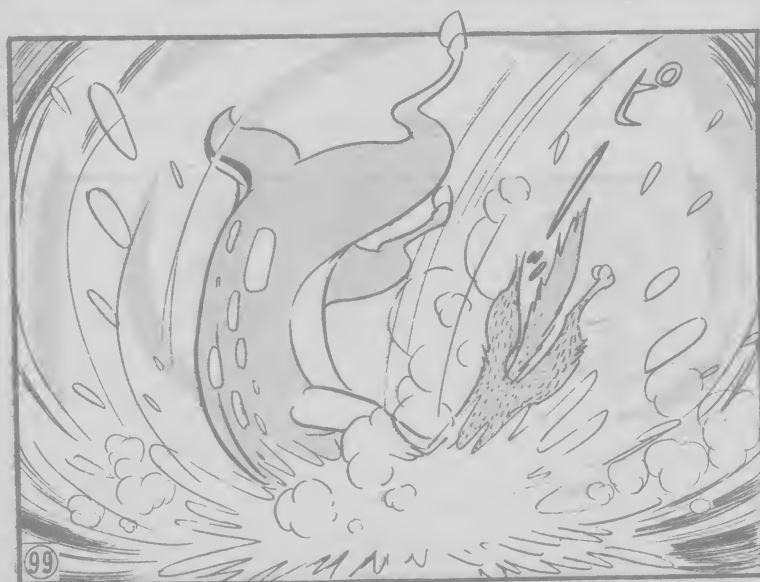
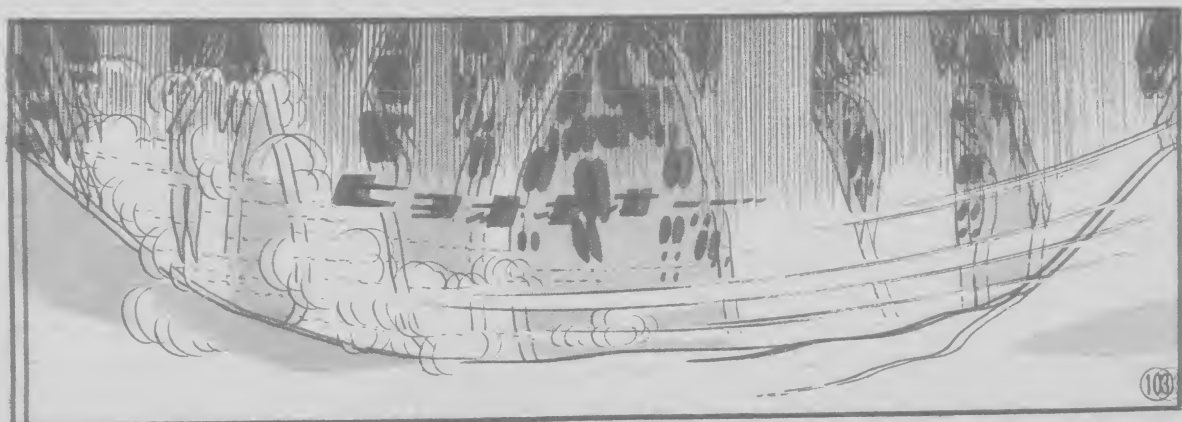
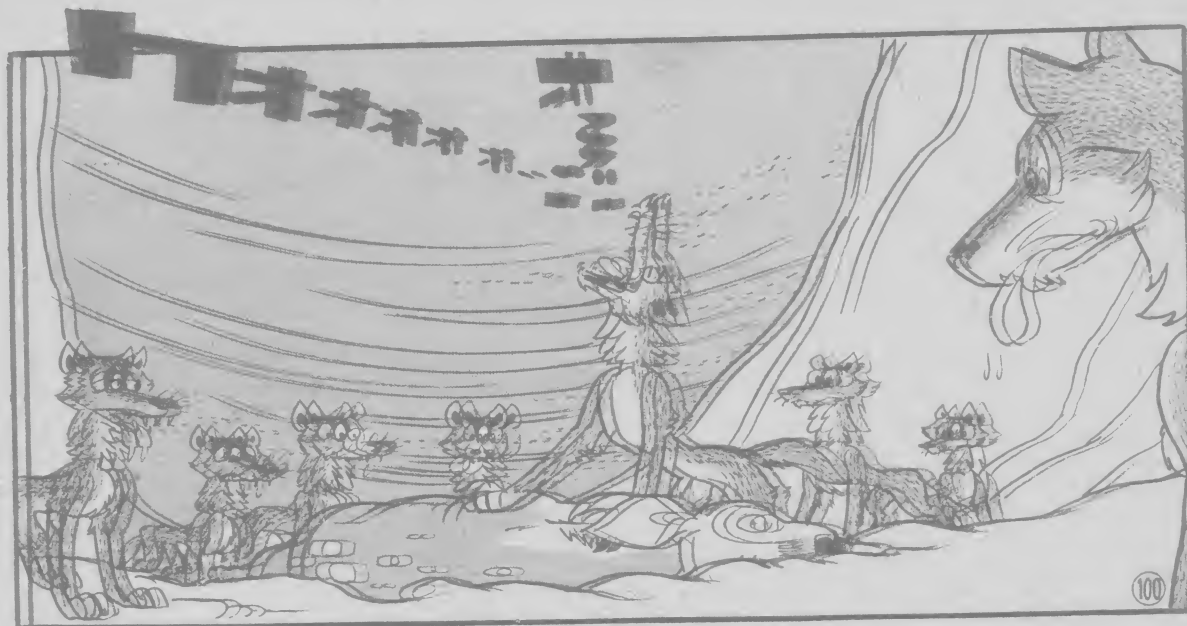
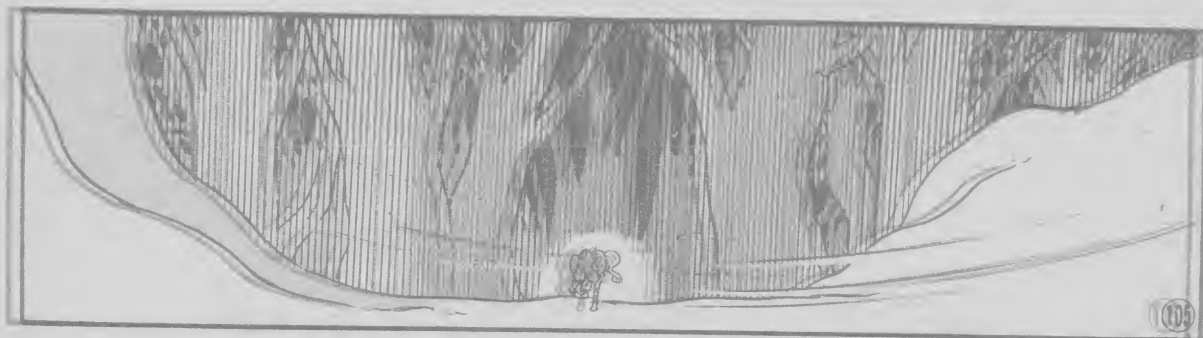
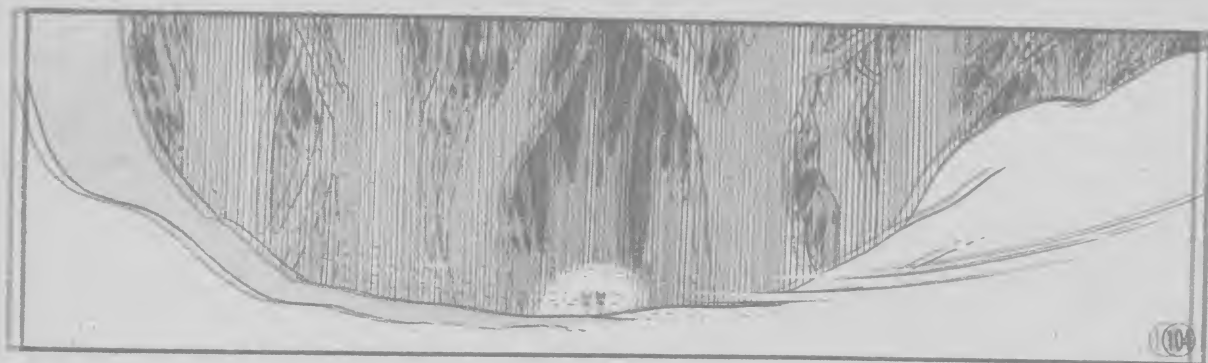
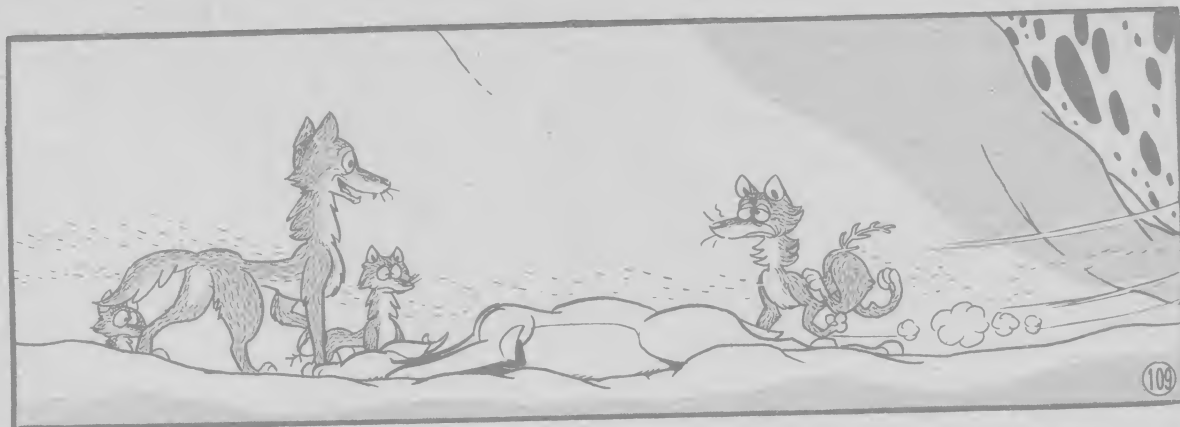
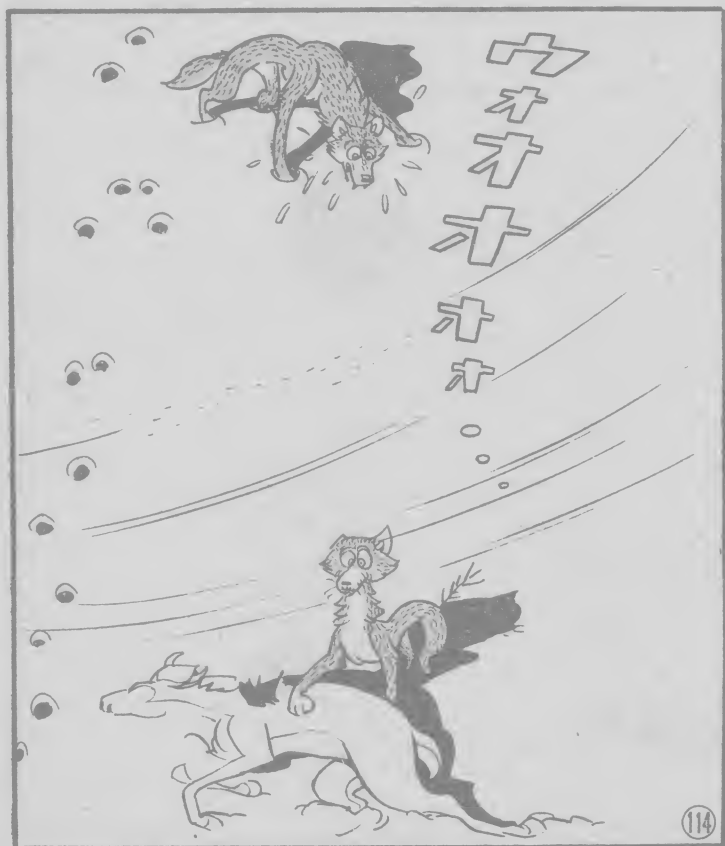
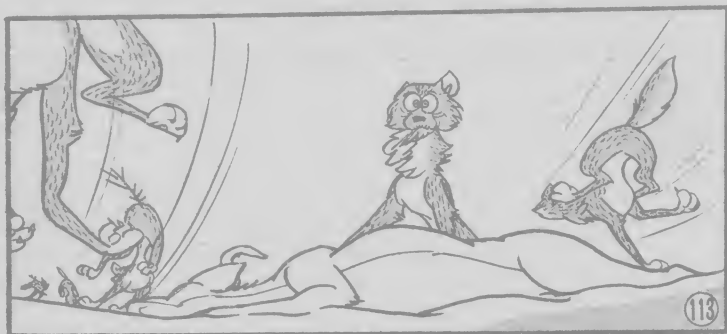
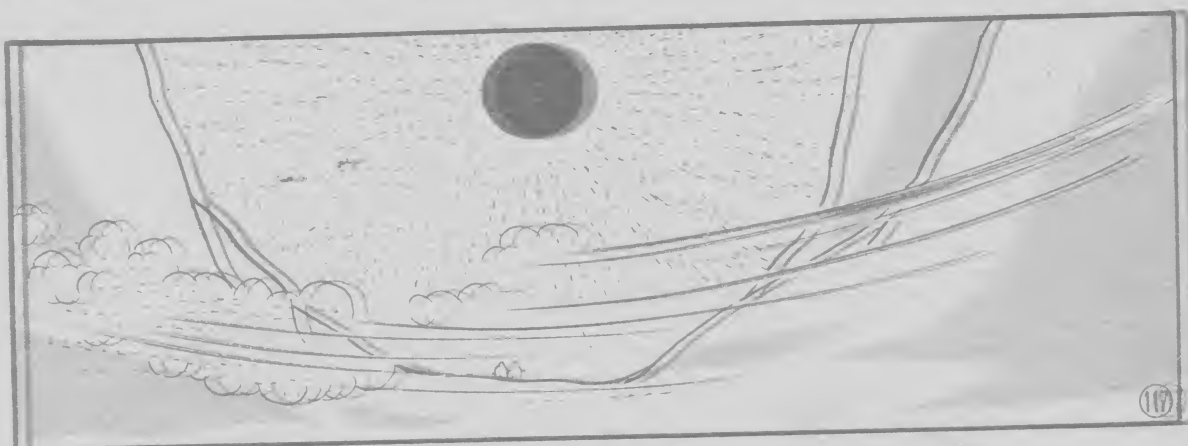
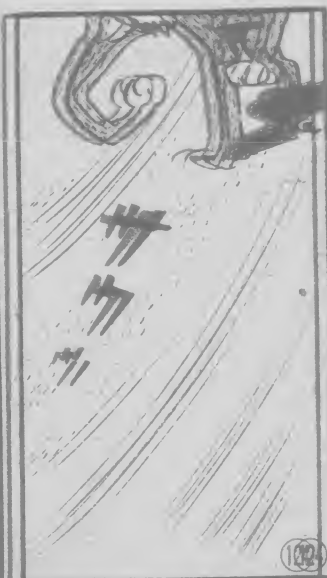
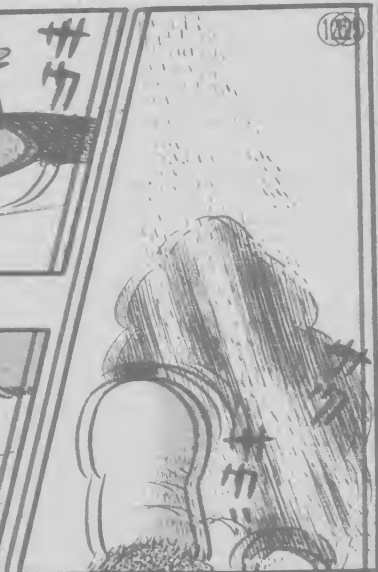
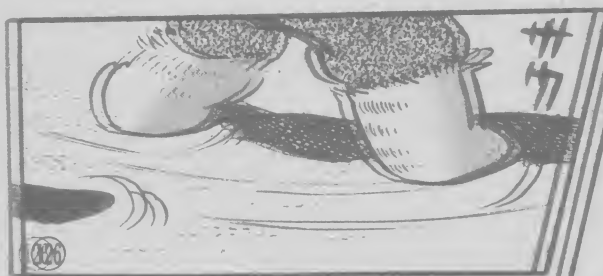
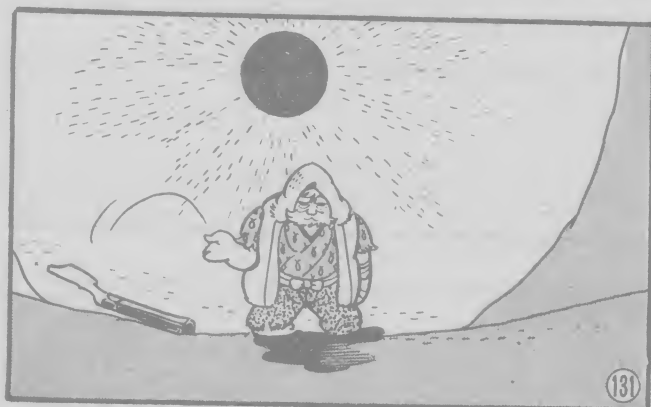
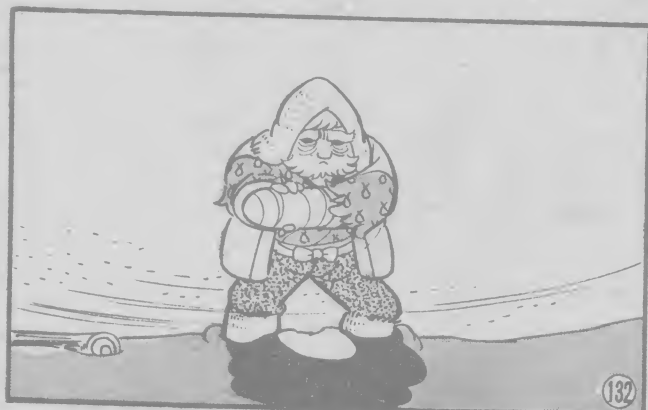
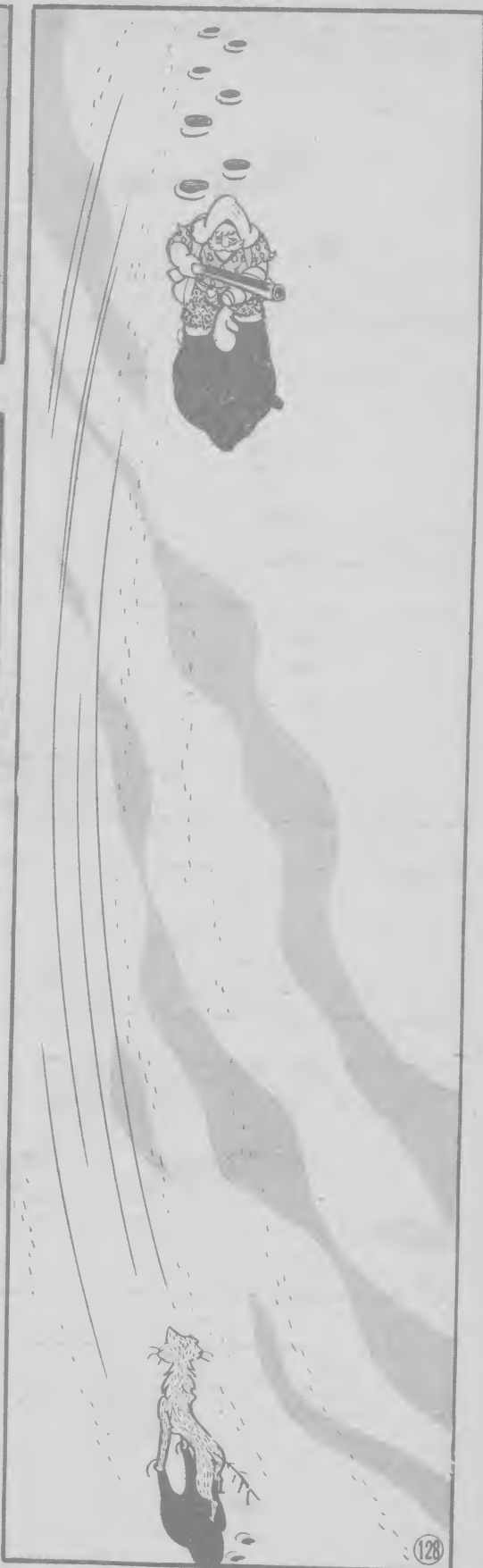
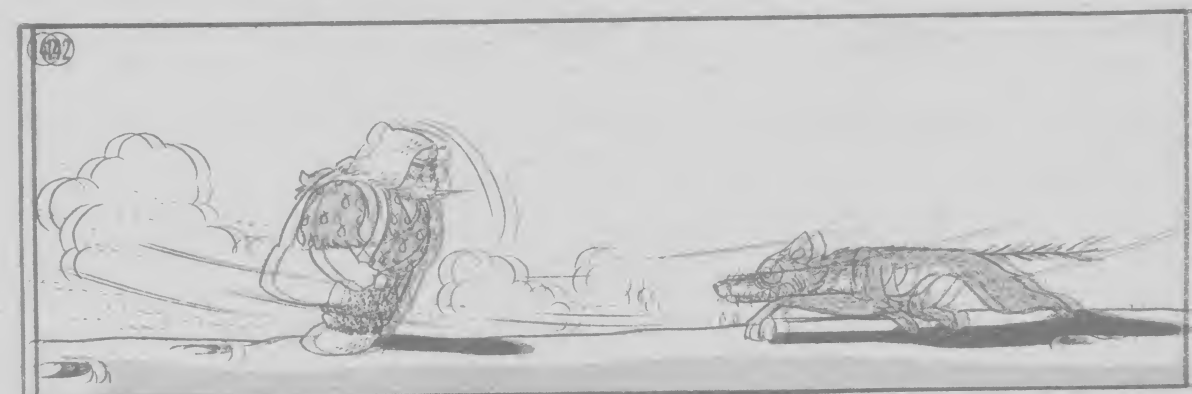
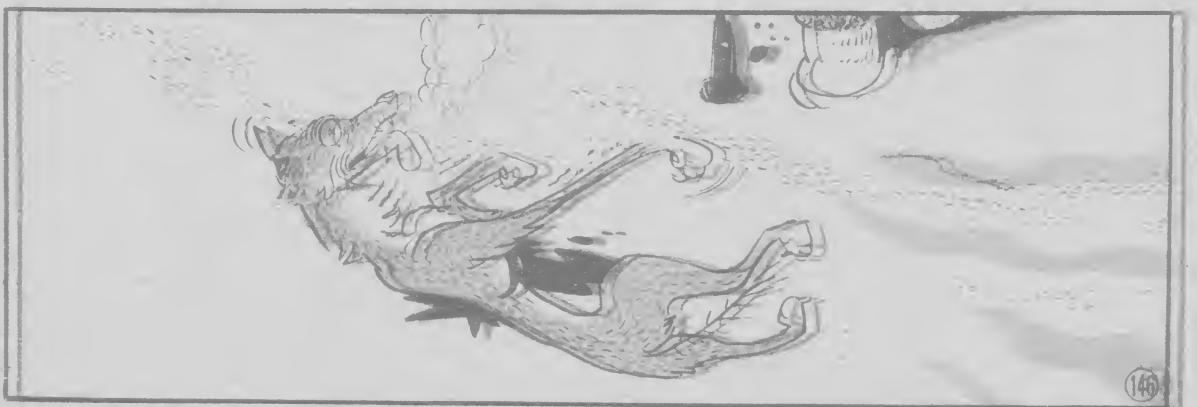
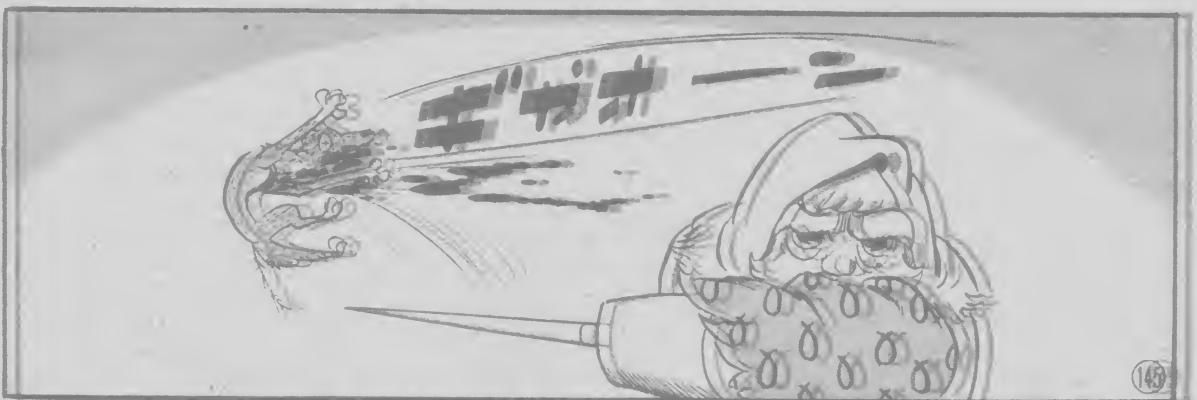
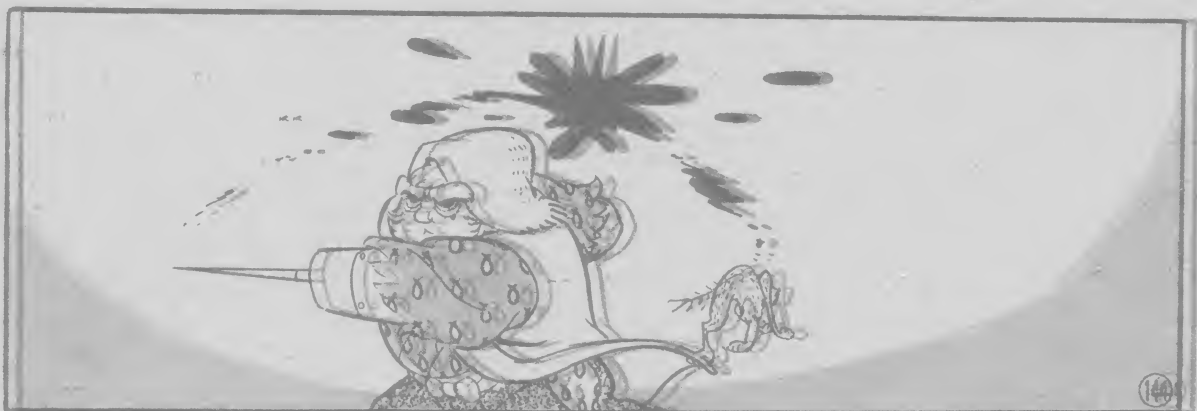
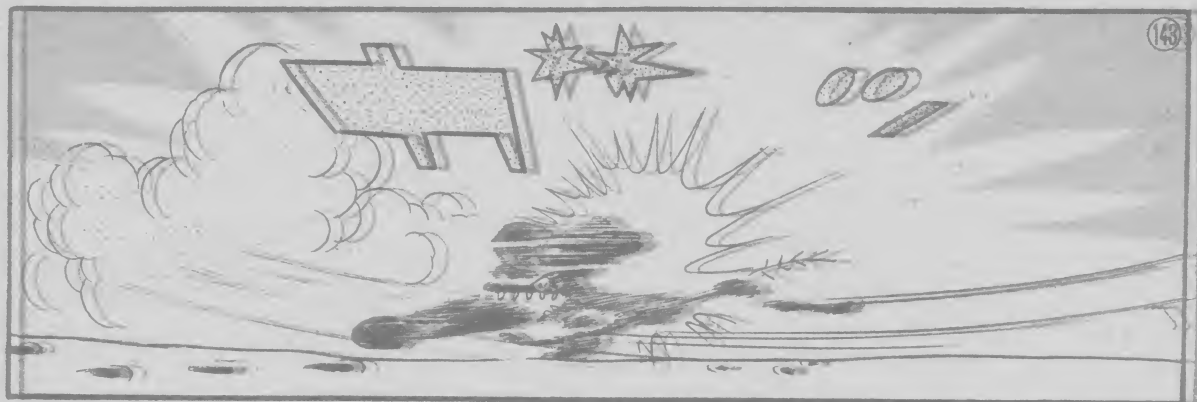
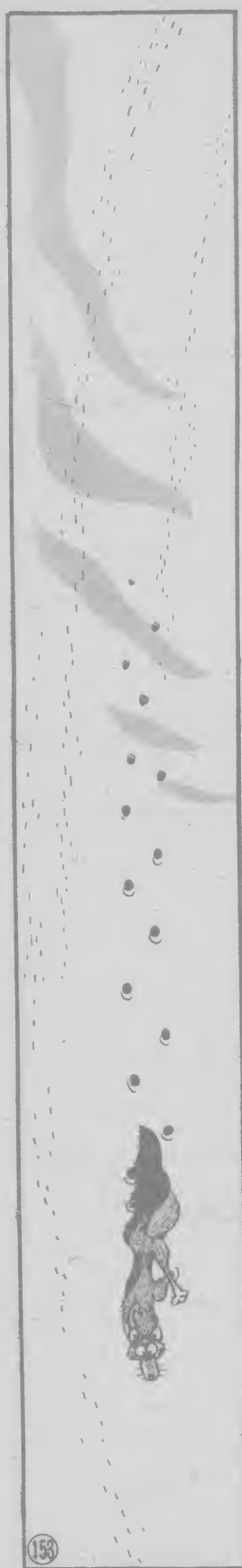
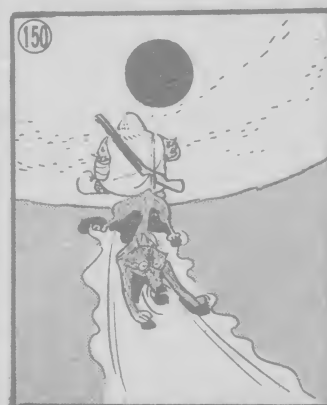
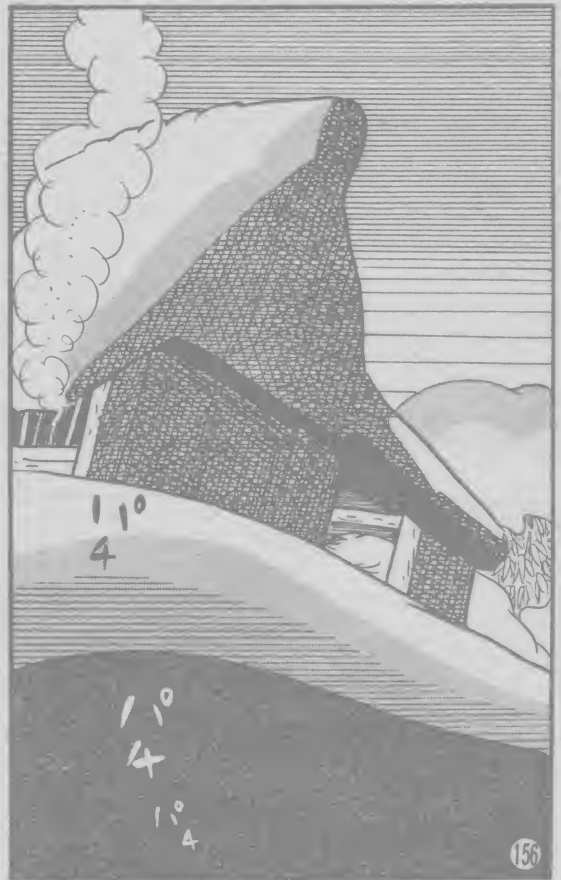
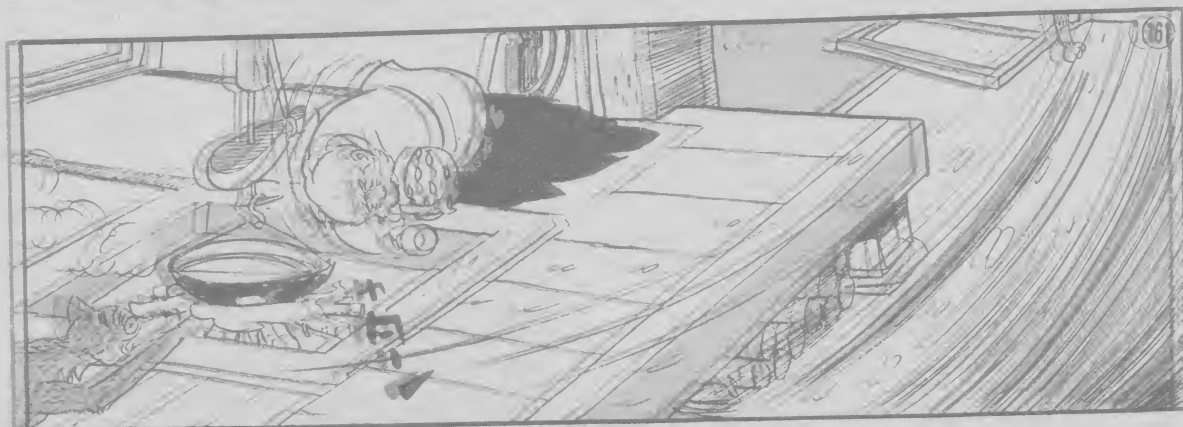
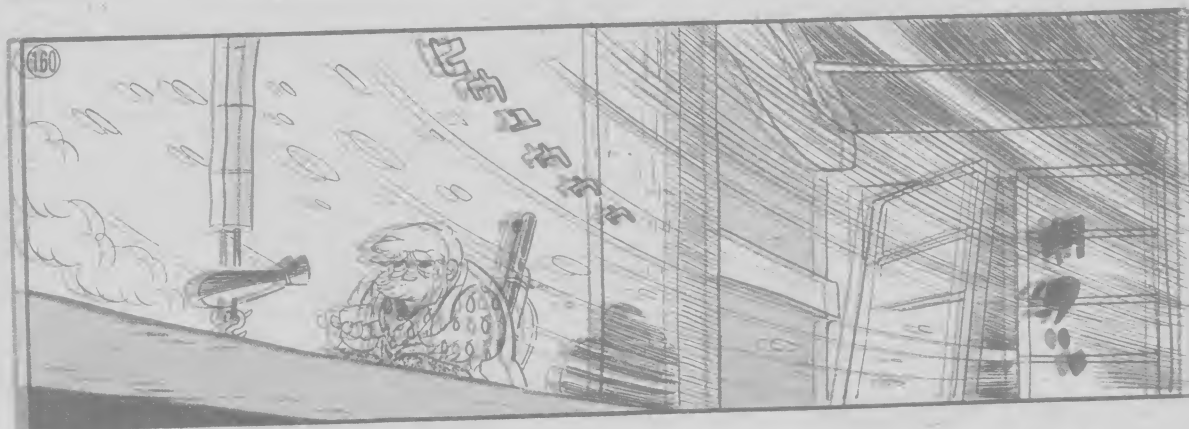
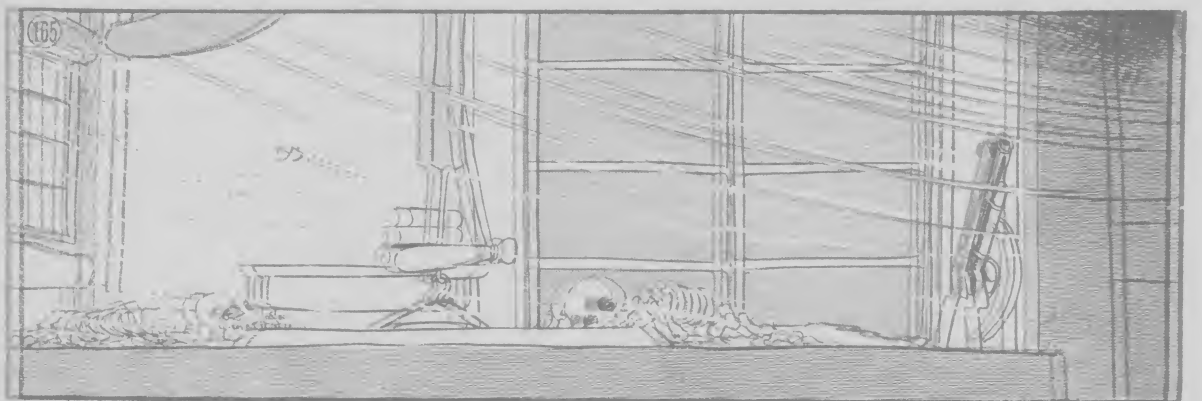
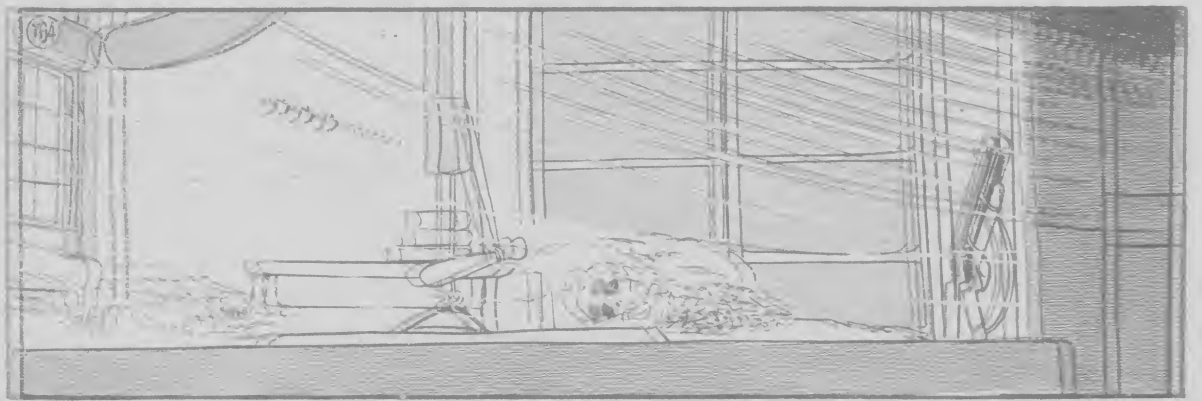
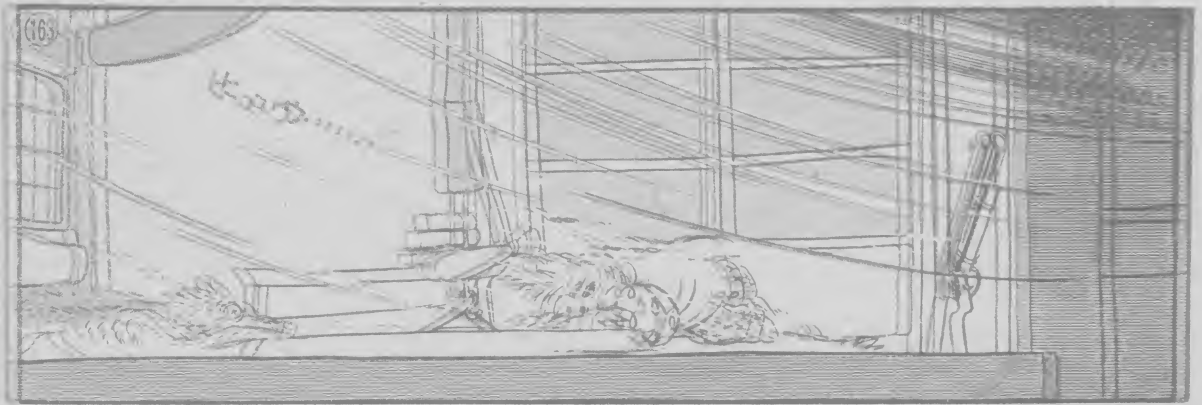
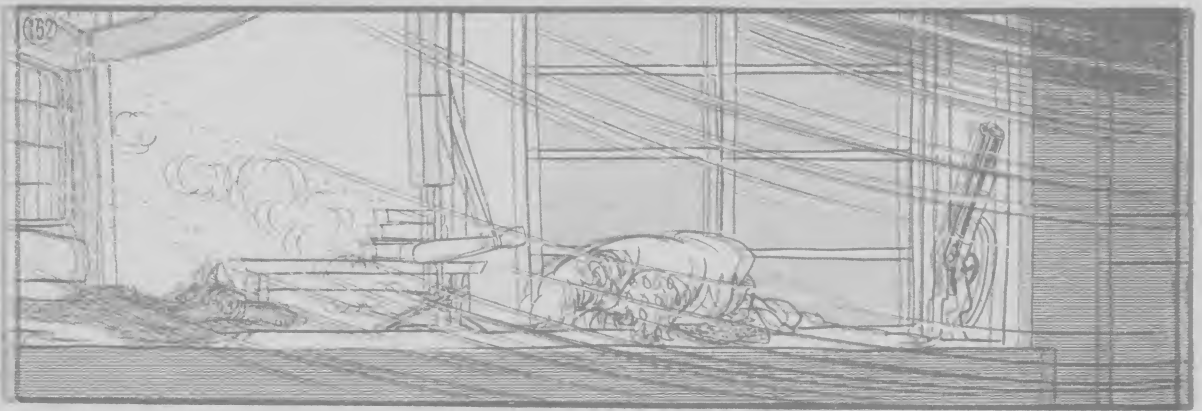
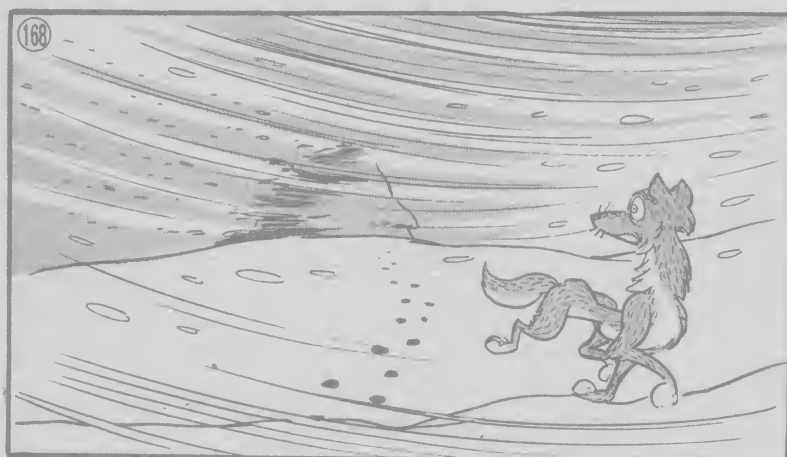
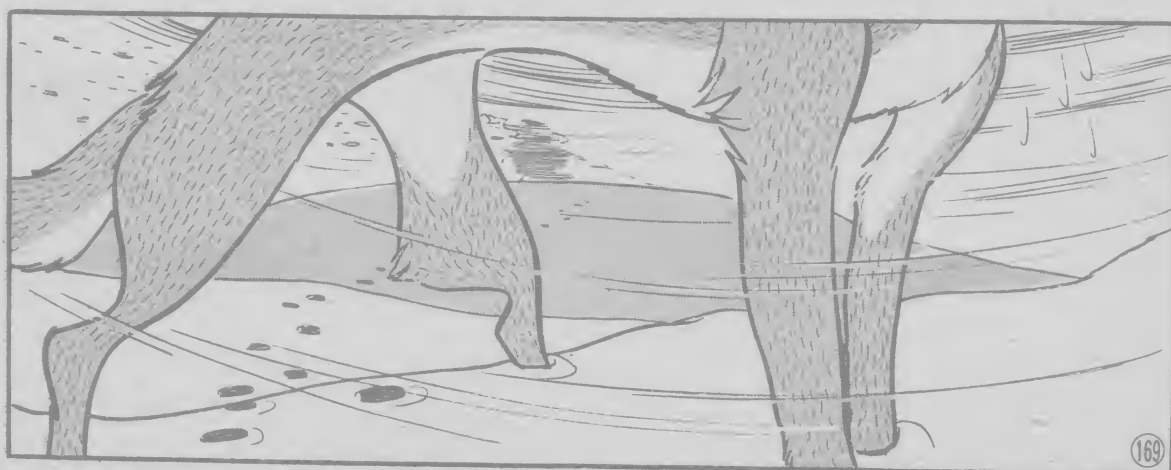
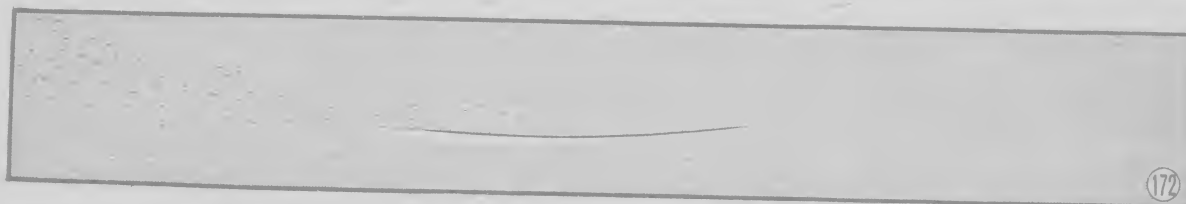
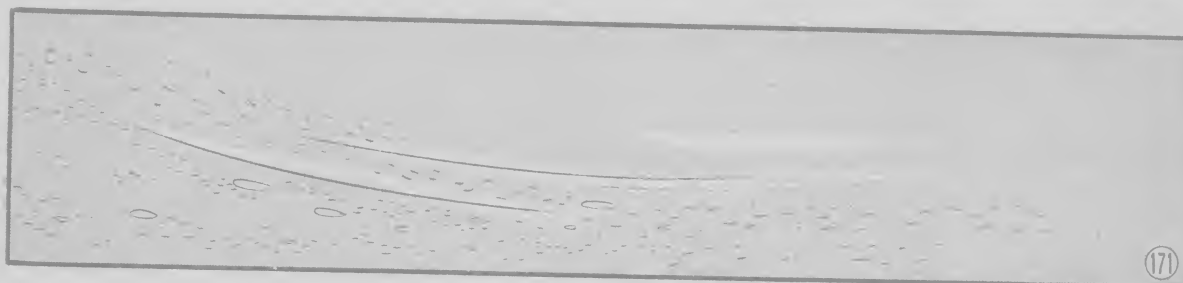
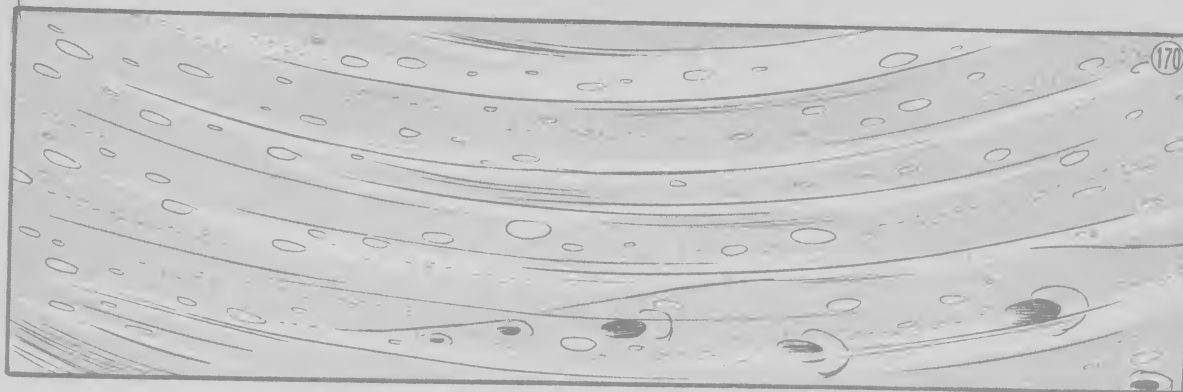
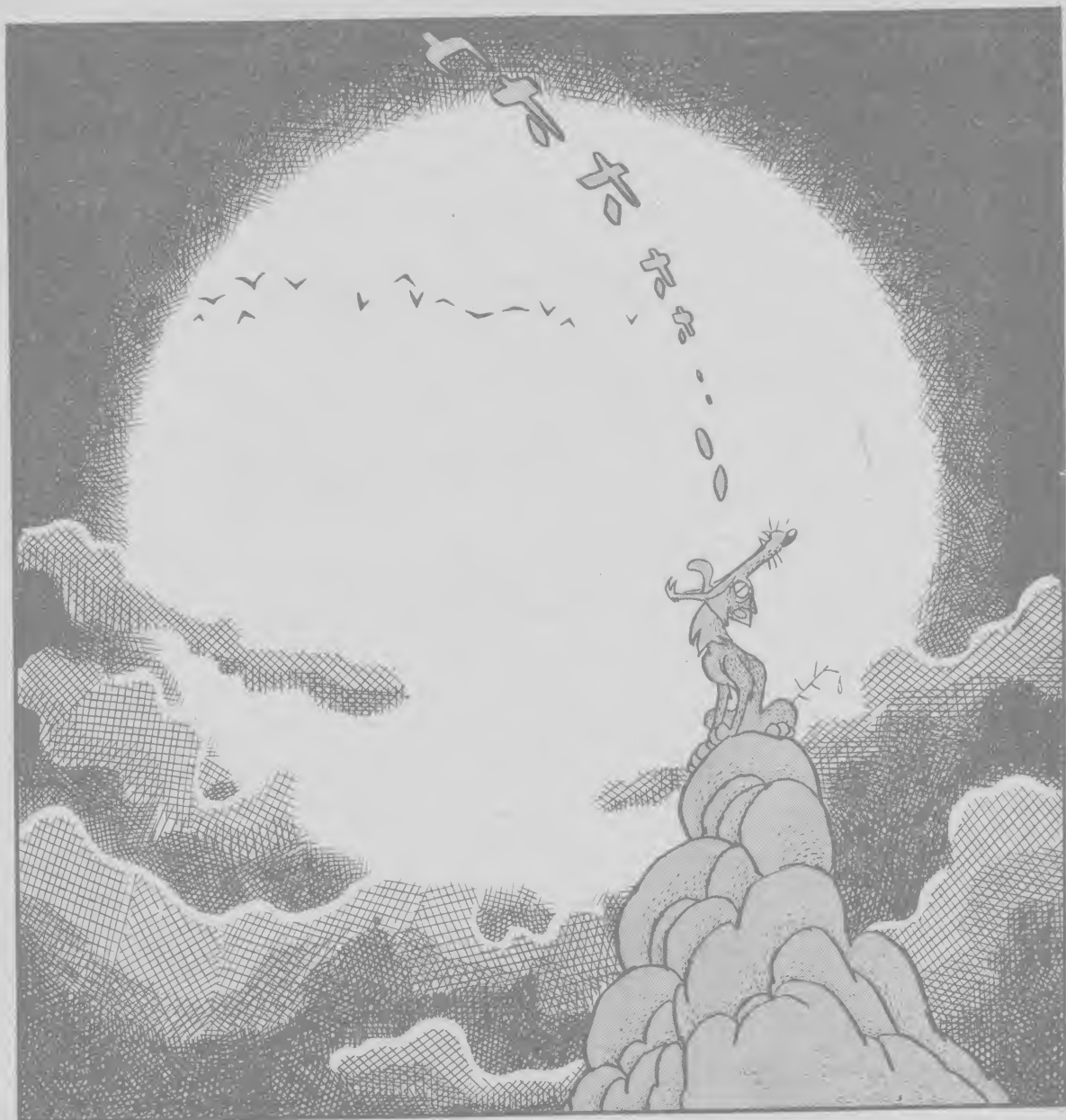
ウウ……

ヒュュんん…

170

171

172

ヒュウ

かって——
日本国では、
本州、四国、九州に
小形のホンドオオカミを
北海道に大形の
エゾオオカミを産し、
その生命を謳歌した
時代があった——

が……
ともに
一九〇四年を
さかいに
絶滅したと
つたえられる。

おわり

この作品は、「少年画報」昭和四十一年十二月号に掲載された作品です。